

東雲云々通信

平成二十九年誌

東雲中学校校長室通信

文責 校長 渡邊 和彦

平成二十九年五月二十四日発行第五号

運動会立派でした

盛会のうちに運動会が無事終了しました。本当に感動的で、最後まで諦めない魂のこもった運動会だったと思います。なんとと言っても印象的だったのは、どの生徒も自分達の分団のために死力を尽くしたことでしよう。これでも、倒れても、多少の怪我をしても立ち上がり、なりふり構わず頑張った。見ている私は何度も涙をぬぐわなければなりません。子どもはすごいなあ。上浦の皆さんに愛されているな」と何度も何度も思っていたのです。小学生にも幼稚園生にも優しくできましたね。きつと君たちのことをあこがれのまなざしで見えています。「いつか中学生になって、あのかつこいい法被(ハッピ)を翻(ひる)がえして踊りたい!」と強く思っているでしょうね!私はそんなあこがれがとても大事だと思っております。そんな気持ちから、学校を愛する気持ちが生まれます。学校を故郷を誇りに思う気持ちが生まれるのです。



校長先生は(みんなにはどうでもいいことかもしれないが)上浦を東雲を心の底から愛していて、誇りに思っているのです。

やらかした!

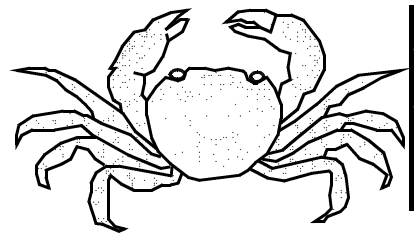
こう見えて校長は結構忙しいのです。一五日、月曜から本日二四日、水曜まで十日間全く休みになっていません。振り替え休業の二日間も出張、研修、会議でした。昨日は夕方まで大分で会議があり、電車で佐伯駅まで帰ってきました。

佐伯駅の有料駐車場に駐車していたので、料金を払わねばと精算機の所に行きました。駐車場の枠の番号が⑭番だったと思つたので精算ボタンを押すと七百五十円と表示されました。「結構高えなあ」と心の中でつぶやき、車まで戻ると、パー(車体の下に出ってくる車止め)が下がっていませんか?頭の中が?????でいっぱいになり、よくあたりを見ると、私の車は⑮番に駐まつているではありませんか!ガン!ガン!!!ショックを受けた私は、腰が抜けそうになりましたが、気を取り直して、再び機械に向かいました。

三百五十円を支払いました。領収書が二枚になりました。合計で千円になりました。誰のせいでもありません。悪いのは私です。⑭番に駐まつていた、赤いマーチの車止めはしつかり下がっています。それに赤いマーチは少しうれしそうです。



蟹(カニ)について



私が小さな頃、上浦の海や川そして山は天国でした。海にはたくさん獲物がいたので。ニイナ、オイズ、アワビ、サザエ、ホゴ、キス、ギザメ、カッターンニギリ、ベンケイガニ、ミヤマクワガタ、ノコギリクワガタ、ヒラタクワガタ、カブトムシ、山芋、アケビ、サド……楽しくて仕方なかった……そんななか、ちようと「むげねえ」IIかわいそうな生き

物がいたのです。僕らはそれをズガニと呼んでいました。正式名はモズガニと言います。川ガニと呼ぶ人もいるし、中国の上海ガニはほぼ同じ種類だそうです。このカニには爪の所にモジャモジャした毛が生えていて、色は灰色がかつた褐色で、美しさはみじんも感じません。おまけに恐ろしいほどでかいのがいるのです。主に暁嵐の滝から浜辺まで全般的に生息していました。

みんなは口々に「食べられない」といつていましたし僕らもそう信じていました。磯に生息するワタリガニは競い合つて取つていましたし、最高に美味でしたが、このカニだけは食べようと思つたこともありませんでした。だから、石を投げつけていじめたり、無意味に殺したり、木ぎれと空き缶を見つけて火をつけて茹でたり(茹でると素晴らしくおいしそうな赤色になる)。本当にひどかつた……反省しています。

ところがそれから十数年の歳月が流れ、弥生町や宇目町で勤務したとき、「ガニ汁」とかに代表されるように、この蟹が貴重で美味な食材として珍重されていることを知ることとなり、ショックを受けます。

今では、私の大好物の一つです。ズガニに謝りたい。(※ちなみに現在、漁業権のない者の魚介類の採取は禁じられています)

気持ち切り替える
遠足は終わった……さあ気持ちを切り替えて!運動会は終わった……さあ気持ちを切り替えて!県対予選は終わった……さあ、気持ちを切り替えて!修学旅行は終わった……さあ、気持ちを切り替えて!文化祭は終わった……さあ気持ちを切り替えて!夏休みも冬休みもゴールデンウイークも、春休みも終わった……さあ、気持ちを切り替えて!クリスマスもお盆もバレンタインデーもハロウィンもホワイトデーも終わつた……さあ、気持ちを切り替えて!

行事も多いから気持ちの切り替えも大変です。私の父親は「切り替え」等と丁寧な言葉を使わず、こういう風に怒鳴っていました。「いつまでものぼせとんじゃねえ!つりあがんな、このけちゆらが!」

※意味は、近くのお年寄りに聞いてみてね!